

02. 課題・問題

一 まちづくり

p.07

人口減少による個人消費の減少が巨額
旧尾道市の人口減少が深刻(特に女性)
人口の流出が加速
空き家の増加
政治・行政の経済感覚に弱み
対外的な広報の部署がない
高さ制限
行政コストの増大
医療レベル
中心市街地
サスティナブル
広島県内主要都市との比較
尾道市町丁別人口推移

一 観光

p.11

観光消費額が低い
オーバーツーリズム
拠点づくりが弱い
高級ホテルが少ない
ビジネス需要が少ない
向島・因島が活かせていない
御膳
公共交通

一 産業

p.12

産業団地が整備されなかった
レモンの需要逼迫
強力な産物の広がり
海産産業
漁獲高の減少
働き方
エネルギー問題
労働力の不足

一 教育

p.13

小中学校
尾道市立大学

一 地域連携

一 総括

02. 課題・問題

一 まちづくり

人口減少による個人消費の減少が巨額

人口が1975年から45年間減少し続けていることに加え、直近の5年間で加速度的に減少。人口減少により街の民力の低下が著しい。労働力の減少など、企業経営にも大きな影響を及ぼす。1人当たり130万円の個人消費を想定。現在の価値で換算すると、人口のピーク時と比べ706億円の個人消費が消えてなくなった。尾道市の総観光消費額:292億円の2倍以上となる。

(単位: km², 世帯: 人、億円)

	現在の市 域の人口	現在の市域 の人口増減 (5年前との比較)	5年間 平均増減	1975年 との差	1975年比 年平均 減少人数	1975年から の個人消費 消費額増減	1975年から の年数
1975	185,503	2,178	436				
1980	180,901	-4,602	-920	-4,602	-920	-50	5
1985	177,532	-3,369	-674	-7,971	-797	-104	10
1990	166,930	-10,602	-2,120	-18,873	-1,238	-241	15
1995	158,890	-7,040	-1,408	-25,613	-1,581	-333	20
2000	155,200	-4,690	-938	-30,303	-1,512	-394	25
2005	150,225	-4,975	-995	-35,278	-1,176	-489	30
2010	145,202	-5,023	-1,005	-40,301	-1,151	-524	35
2015	138,626	-6,576	-1,215	-46,877	-1,172	-609	40
2020	131,170	-7,456	-1,491	-54,333	-1,207	-706	45

減少数が急激に加速
706億円の個人消費が減少
=136万円

2040	110,000	-21,170	-1,059	-75,500	-1,678	-982	45
------	---------	---------	--------	---------	--------	------	----

このままでは目標達成は
出来ない

旧尾道市の人口減少が深刻(特に女性)

5年前との比較で、旧尾道市の人口減少が▲2,335人⇒▲3,880人と極端に増えており、逆に因島・瀬戸田エリアの減少は改善している。特に旧尾道市は、2000年の▲1,170人⇒▲1,713人⇒▲2,304人⇒▲2,335人⇒▲3,380人と、減少人数がずっと増加傾向にある。旧尾道市の前回人数との増減比較では、男性▲536人に対して、女性▲1,009人と女性の減少人数が極端に増えている。

⇒人口減少は尾道市全体の課題だが、旧尾道市の減り方、中でも女性の人口減少が最も深刻な課題といえる。

(単位: 世帯、人)

調査年	調査名	全市域			旧尾道市			瀬戸田			因島			旧尾道市		
		世帯	人口	男女	世帯	人口	男女	世帯	人口	男女	世帯	人口	男女	世帯	人口	男女
平成14年(1998年)	第10回	158,890	76,230	84,880	65,708	44,009	48,796	30,300	14,315	15,985	10,011	4,763	5,238	8,207	3,940	4,268
平成17年(2005年)	第17回	155,200	75,004	82,141	62,994	42,448	46,145	28,167	13,394	14,773	9,906	4,287	5,619	6,111	2,797	4,314
平成19年(2007年)	第19回	150,225	71,138	78,087	60,879	42,840	47,852	25,877	12,383	13,494	9,362	4,237	5,125	5,859	4,186	16,714
平成22年(2010年)	第22回	145,202	69,250	75,919	60,969	41,888	46,585	25,430	12,484	12,976	8,747	4,282	4,465	7,888	3,222	4,666
平成27年(2015年)	第27回	138,626	66,290	72,334	60,254	40,853	46,281	23,390	11,481	11,909	8,227	3,842	4,385	6,887	3,239	3,648
令和2年(2020年)	第31回	131,170	63,466	67,702	62,054	38,984	42,870	21,714	10,808	10,806	7,597	3,665	3,934	6,428	2,882	3,546
増減率			100%	100%	100%	82%	82%	85%	17%	15%	8%	8%	8%	8%	8%	10%

旧尾道市減少率

平成14年(2000年)	第17回	-4,880	-2,171	-2,519	-1,170	-580	-610	-2,113	-821	-1,102	-435	-198	-208	-68	-91	-5
平成17年(2005年)	第18回	-4,975	-1,201	-2,054	-1,710	-898	-1,207	-1,510	-611	-896	-644	-200	-224	-172	-88	-174
平成22年(2010年)	第20回	-5,023	-1,205	-2,188	-2,304	-654	-1,260	-1,247	-528	-918	-915	-92	-280	-284	-127	-147
平成27年(2015年)	第22回	-6,576	-2,001	-2,585	-3,335	-1,033	-1,205	-1,030	-683	-1,007	-739	-340	-380	-568	-283	-279
令和2年(2020年)	第24回	-7,456	-2,024	-2,632	-4,000	-1,589	-2,311	-1,838	-693	-1,203	-440	-281	-361	-547	-315	-248
増減率の増減率		-68%	-18%	-124%	-135%	-53%	-100%	-44%	-44%	-44%	-39%	-39%	-39%	-39%	-39%	-39%

【調査対象】男女人口増減率は調査対象市域・市町村域での人口

02. 課題・問題

人口の流出が加速

2022年と2021年の比較で、尾道市の人口の社会増減は、-650人。その76%が20代、10～30代で98%を占める。

エリア別に最も転出が多いのは、福山市で全体の28.2%、次いで広島市周辺エリアの16.9%、合わせて45.1%。首都圏・東海圏・近畿圏の転出も多く、併せて45.1%。全体の90%を上記エリアが占める。

働く場所、都市のエンターテインメント性、レベルの高い教育水準など、簡単には解決できない問題なだけに、きめ細かい対策と大胆な施策、双方で取り組む必要がある。

		(人、%)									
尾道市と都道府県、市区町村増減	転数	エリア別	0～9	10～	20～	30～	40～	50～	60歳		
Prefectures and Municipalities	Total	増減比	歳	19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	以上		
全国合計 Total	-650	100%	11	-74	-468	-84	-8	27	-40		
東京・神奈川・千葉・埼玉	-89	10.6%	8	-23	-88	10	13	9	0		
愛知・三重・岐阜・静岡	-102	15.7%	-6	-1	-57	-24	-11	2	-3		
京都・大阪・兵庫・奈良	-122	18.6%	-6	-25	-104	-7	13	7	3		
広島・廿日市・府中町・坂町	-110	16.9%	-12	-13	-78	-4	-13	12	-2		
福山市	-183	28.2%	31	-28	-84	-41	-19	-3	-43		
上記以外	-84	9.8%	-2	19	-87	2	5	0	-1		
年齢別増減比		100%		-2%	11%	76%	10%	1%	-4%	7%	

空き家の増加

7700軒を突破。加速している。

政治・行政の経済感覚に弱み

民間の知恵を活用する機運が弱い。

対外的な広報の部署がない

PRに一貫性がないことと、伝えたいことを戦略的に伝えることが出来ていない。

高さ制限

中心市街地の人口減少が、市内でトップクラス。土地の価値の下落。

行政コストの増大

映画資料館など市の運営する箱が、採算が取れていないものが多い。

医療レベル

尾道市民病院の医師が足りない問題や救急医療体制の問題。

中心市街地

アーケードの老朽化や、商店街任せの運営で、防災・土地活用・美観形成などにリスクがある。

サステナブル

100年企業が極めて多いが、対外的に伝わっていない。

02. 課題・問題

広島県内主要都市との比較

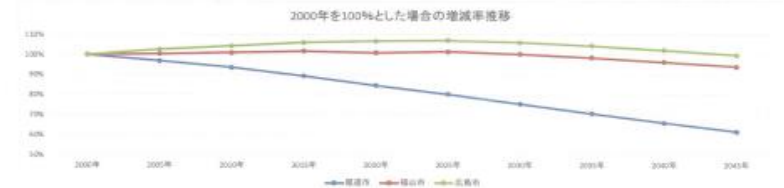
広島県内の大都市との比較で、尾道市は1975年から45年間人口減少が続いているのに対し、福山市は今回の2020年に初めて人口減少に転じ、広島はまだ減少していない。

今後の予測でも広島市は2000年レベルまで人口が減るのは2045年であり、人口減少の時代とは言え、都市間で大きな差があることがわかる。

この20年で、個人消費が、尾道▲312億円、福山+52億円、広島市+972億円と個人消費の額にも大きな差がある。

⇒より一層の包括的な対策で、この状況を改善もしくは打開したいところ。

2000年以降の人口推移(2025年以降は予測)				2000年を100とした場合の比率				2000年と比べた年間消費額の増減額			
年次	尾道市	福山市	広島市	年次	尾道市	福山市	広島市	年次	尾道市	福山市	広島市
2000年	155,200	456,908	1,128,000	2000年	100%	100%	100%	2000年			
2005年	150,225	459,087	1,154,000	2005年	87%	100%	102%	2005年	-65	28	364
2010年	145,202	461,257	1,174,000	2010年	84%	101%	104%	2010年	-130	58	824
2015年	138,828	464,811	1,194,000	2015年	89%	102%	106%	2015年	-215	103	884
2020年	131,170	460,830	1,200,754	2020年	85%	101%	107%	2020年	-312	52	972
2025年	124,309	463,317	1,205,000	2025年	80%	101%	107%	2025年	-402	83	1,027
2030年	116,914	457,805	1,194,000	2030年	75%	100%	106%	2030年	-498	12	884
2035年	108,480	449,846	1,175,000	2035年	71%	98%	104%	2035年	-594	-92	637
2040年	102,268	440,165	1,151,000	2040年	66%	96%	102%	2040年	-689	-218	325
2045年	95,505	429,585	1,122,000	2045年	62%	94%	100%	2045年	-776	-355	-92



02. 課題・問題

尾道市町丁目人口推移

旧尾道市の中心市街地周辺の多くのエリアが、45年間で30%程度まで人口が減少しており、直近の20年間で同エリアの人口は、60%未満のエリアが多い。

因島の約半分の町でも上記と同様の状況が起きている。百島町も同様。

旧尾道市の郊外、マンションの開発されているエリアの人口増加率が高い。

【国勢調査】人口(町丁目別)(昭和45年～令和2年)

(単位:人、%)							(単位:人、%)							
町丁名	昭和45年			45年前との比較		20年前との比較	町丁名	昭和45年			45年前との比較		20年前との比較	
	昭和45年	平成12年	令和2年	増減	増減率			昭和45年	平成12年	令和2年	増減	増減率		
総数	185,933	105,350	131,170	-84,583	-71%	-24,000	46 廣原町	8,961	8,068	7,502	-1,479	-84%	-1,568	83%
2 尾道本町	1,083	470	270	-807	-20%	-194	49 久山田町	1,455	1,389	1,078	-377	-74%	-291	79%
3 尾道南町	88	28	23	-65	-20%	-5	50 本ノ庄町	3,501	2,639	1,893	-1,206	-61%	-748	72%
4 久保一丁目	920	456	286	-634	-31%	-170	51 藤田町	2,002	1,557	1,088	-914	-54%	-689	70%
5 久保二丁目	1,318	593	325	-993	-20%	-270	52 東風連町	86	44	38	-28	-57%	-6	88%
6 久保三丁目	907	839	540	-664	-28%	-294	53 岡宮町	10,800	10,300	8,388	-2,412	-7%	-1,812	81%
7 東久保町	1,887	872	540	-1,425	-23%	-320	10 久保町	367	1,541	1,142	778	311%	-189	80%
8 西久保町	2,290	1,144	671	-1,619	-29%	-473	15 十間田町	163	203	238	23	13%	3	101%
9 防地町	2,106	1,378	810	-1,296	-28%	-589	22 新浜一丁目	543	610	1,118	575	206%	588	183%
11 十四日元町	269	228	147	-222	-28%	-82	30 神田町	873	919	832	156	124%	-87	91%
12 長江一丁目	1,893	826	449	-1,444	-22%	-387	38 天満町	1,085	819	1,273	188	17%	454	188%
13 長江二丁目	1,894	991	585	-1,429	-28%	-629	45 門田町	1,388	2,001	1,812	514	137%	-119	94%
14 土堂一丁目	1,254	553	327	-927	-28%	-229	46 奥ノ郷町	7,854	8,052	8,239	1,214	119%	-714	80%
17 土堂二丁目	798	291	238	-570	-29%	-163	51 西郷町	1,894	1,878	2,191	495	129%	518	121%
18 土堂三丁目	1,112	489	270	-842	-24%	-189	52 西郷町	4,943	8,890	13,125	8,462	253%	3,226	132%
19 西土堂町	1,083	480	282	-801	-27%	-188	56 新富山一丁目	128	544	454	326	255%	-60	83%
20 正徳町	1,662	819	442	-1,220	-27%	-377	57 新富山二丁目	745	1,152	870	125	117%	-283	76%
27 吉和町	1,798	915	520	-1,278	-30%	-295	58 新富山三丁目	18	908	642	628	4013%	-268	71%
28 廣元町	1,797	948	529	-1,268	-29%	-617	62 平塚一丁目	-	-	1,033	-	-	-	-
31 宇保町	1,174	815	558	-619	-47%	-258	63 平塚二丁目	-	-	940	-	-	-	-
32 吉保町	1,869	993	756	-913	-47%	-377	64 平塚三丁目	-	-	789	-	-	586	427%
33 比治町	1,893	1,058	686	-1,206	-27%	-268	65 平塚四丁目	-	-	717	-	-	600	823%
35 三軒堂町	1,874	988	629	-1,245	-24%	-327	66 長崎町一丁目	-	-	2	-	-	-	-
37 新富山一丁目	1,457	889	525	-932	-28%	-564	67 長崎町二丁目	4	1	-	-	-	-	-
43 藤原町	440	281	152	-289	-34%	-109	68 柳井町	8,900	8,111	6,429	-2,474	-73%	-1,485	79%
1 山家町	5,001	4,353	3,558	-1,483	-70%	-795	67 向島町	20,018	16,710	13,089	-6,929	-69%	-6,621	78%
14 長江三丁目	1,583	1,222	812	-771	-27%	-310	70 向島町	1,862	730	380	-1,282	-23%	-250	82%
20 東郷町	380	207	181	-199	-26%	-15	80 西郷町	4,949	5,129	2,811	-2,038	-99%	-1,218	71%
21 西郷町	789	428	290	-499	-23%	-182	68 西郷町	11,789	6,482	4,113	-7,676	-39%	-2,378	83%
22 新富山二丁目	820	270	281	-539	-26%	-109	70 西郷町	8,554	4,885	3,250	-5,204	-39%	-1,528	88%
24 吉保町	1,200	1,188	700	-497	-29%	-483	71 西郷町	215	134	79	-142	-34%	-61	54%
26 福地町	449	487	407	-41	81%	-60	72 西郷町	327	202	84	-243	-29%	-198	47%
28 沖原町	801	947	751	-180	-81%	-166	75 西郷町	1,219	866	607	-712	-48%	-259	79%
34 吉和町	1,204	1,288	1,112	-181	-88%	-258	77 西郷町	1,177	782	574	-603	-49%	-258	73%
36 新富山二丁目	1,647	1,283	877	-770	-23%	-608	88 西郷町	8,045	4,188	3,253	-4,792	-54%	-425	78%
38 新富山一丁目	1,100	817	829	-283	-23%	-111	73 西郷町	719	205	366	-349	-81%	-126	72%
40 新富山二丁目	705	849	883	-144	-84%	-188	74 西郷町	5,784	5,289	5,266	-505	-8%	83	102%
41 東郷町	1,100	1,091	951	-149	-86%	-140	76 西郷町	4,994	3,972	3,237	-1,747	-89%	-735	81%
42 西郷町	810	803	881	-57	-4%	58	78 西郷町	1,071	878	879	-193	-30%	-200	77%
44 藤原町	663	648	406	-254	-62%	-237	79 西郷町	12,061	8,806	7,587	-4,484	-63%	-2,018	78%

注:この表の内訳(町丁目別)は市統計課が作成したもので、内訳の合計は総務省が公表している総数と多少の違いがある。

02. 課題・問題

一 観光

観光消費額が低い

日帰り観光中心なこともあり、国の日帰り観光の想定観光消費額単価17,334円と比べ、尾道市は4,284円と極めて消費額が小さい。観光消費額が、人口減少による個人消費の減少を大きく下回っているため、街が活性化していない。

市町村	2019年			2009年			2009-2019年増減			2009-2019年比較			2019年 県内順位	
	観光客数	観光消費額	1人当たり 観光消費額	観光客数	観光消費額	1人当たり 観光消費額	観光客数	観光消費額	1人当たり 観光消費額	観光客数	観光消費額	1人当たり 観光消費額	観光客数	観光消費額
広島市	18,212	290,148	16,047	11,075	148,588	13,238	5,137	141,560	2,811	1,485	177%	121%	24%	55%
呉市	3,761	35,318	9,380	4,300	25,418	5,911	-539	8,800	3,479	87%	138%	159%	6%	6%
福山市	6,288	32,704	5,194	6,347	31,589	4,977	-61	1,118	217	99%	104%	104%	9%	7%
尾道市	6,828	29,243	4,284	5,849	21,721	3,714	877	7,522	570	117%	135%	115%	10%	7%
廿日市市	7,305	28,988	3,967	6,839	22,179	3,799	2,069	4,494	-177	130%	129%	96%	12%	7%
庄原市	2,991	8,704	3,899	2,357	4,399	1,869	204	4,305	1,533	109%	198%	182%	4%	2%
竹原市	1,048	3,238	3,080	799	2,704	3,484	250	474	-374	131%	117%	86%	2%	1%
三原市	4,182	8,182	2,199	2,138	5,143	2,404	2,023	4,009	-208	195%	178%	91%	5%	2%
三次市	3,475	6,543	1,883	2,842	4,098	1,815	633	1,857	268	122%	143%	117%	8%	1%
府中市	1,217	1,986	1,617	838	1,030	1,229	379	956	388	148%	91%	192%	2%	0%
広島県	87,194	440,980	5,052	55,302	297,630	5,201	11,892	153,350	1,381	122%	152%	120%	100%	100%

尾道市は、10年前と比べ観光客数で100万人増加、消費額で7,522億円の増加、1人当たり観光消費額で570円増と成果を上げたが、

- ①広島市が、総観光客数1,621万人、観光消費額2,600億円、一人当たり観光消費額で16,000円と他を圧倒して最大の観光の果実を享受している。
- ②福山市と一人当たり観光消費額で900円程度下回っており、観光消費額全体で福山に負けている。
- ③宮島を有する廿日市市は、観光客数で200万人の増加を達成している。
- ④三原市が総観光客数で416万人と10年間で倍増させている。
- ⑤尾道市は、広島県内で観光客数で10%を占めているが、観光消費額の構成比は7%と低く、圧倒的に広島市内にそのメリットを享受されている。

オーバーツーリズム

中心部のキャパシティが小さく、GWなどにオーバーツーリズムの問題が起るため、観光満足度に問題がある。

拠点づくりが弱い

観光の強みとなる拠点が少なく、過渡型の観光から脱却できていない。

高級ホテルが少ない

しまなみのポテンシャルを感じることもできる高級ホテルが少ない。

02. 課題・問題

宿泊のビジネス需要が少ない

福山にビジネスホテルで大きく差を付けられている。

向島・因島が活かしていない

瀬戸田と比べ、強力な観光コンテンツに欠ける。

御調

これといった産物、観光資源が知られていない。

公共交通

バス路線が便数が少なく採算性が低い。渡船の航路が減少している。

一 産業

産業団地が整備されなかった

20年近く新たな産業団地・流通団地が整備されていない。

レモンの需要逼迫

急増する需要に応えられていない。

強力な産物の広がり

しまごころ、まるか食品「レモンイカ天」のような全国区のヒット商品も生まれているが、更なる拡大が期待される。

海事産業

未来永劫、本当に海事産業がこのエリアで持続できるか、外国との競争力も含め課題がある。

漁獲高の減少

海のきれいさと温暖化もあって、漁獲高が減少傾向にある。

働き方

テレワークの拠点が少ない。

エネルギー問題

多くの企業にコスト増の問題が発生している。

労働力の不足

募集に対し応募が少ない状態の企業が多く、大きな問題となっている。

02. 課題・問題

一 教育

小中学校

中心市街地の小中学校が全て移転し、統廃合が検討段階に入っている。

また、私学の小学校がない。国立の付属校も無く、福山・三原に教育面で一定の差を付けられている。

尾道市立大学

尾道市内就職率が3%未満と、福山市立大学の40%以上と比べ著しく低い。

大学の学部がエリア特性を活かす存在となっていない。地域とのかかわりも極めて限定的。

一 地域連携

経済団体と行政、瀬戸田から御調までの拠点間の連携、近隣市町村との連携などが、うまくいっていない。

総括

このままでは、縮小均衡に陥ってしまい、行政レベルや医療体制の維持や、個人消費の減少による民力の低下、労働力の不足や街の競争力の低下など、尾道市の将来の発展において大きな問題と思われる。

これは何としても乗り越えなくてはならない。

そのため、広島経済同友会尾道支部として、「尾道を考える委員会」を中心として、様々な角度で課題や対策を検討することとなった。

参照：広島経済同友会尾道支部「提言書 尾道みらいビジョン2023」